

表現になっているので、営業譲渡に伴い債務も承継されるのでは、という期待を債権者に抱かせかねない点が気になります。

**牛島** そうでしたか。軽い気持ちで出した挨拶状だったのですが。

**宮下** 債権者から問い合わせがあった場合には、ただの挨拶状であり、債務の承継を表すものではないという牛島さんの趣旨を説明することになりますね。

また、同様に譲受人が債務を弁済する責任を負う旨を定めた規定として商法十七条があり、営業譲渡を受けた場合に、譲受人が譲渡人の商号を続けて用いる場合には、譲受人は譲渡人の債務を弁済する責任を負うとされています。

**牛島** なぜ、商号を続けて用いると債務を弁済する責任を負うのですか。

**宮下** 営業譲渡が行われた場合、譲受人が譲渡人の商号を用いている場合には、債権者は、営業の主体が交代したことを知らないか、あるいは譲受人が債務を引き受けているものと考えることが通常なので、その信頼を保護するため、と説明されています。

完全に同じ商号でなくても、非常に似た商号を用いる場合も「商号の続用」に該当すると判断されるため、注意する必要があります。

**牛島** 私の場合、自分の看板を持ちたくてわざわざ店名に名前まで入れて開店したわけですから、大丈夫ですね。

**宮下** 新しく自分の名前を入れるような場合には、問題になることは少ないと言えますが、あまりに似た名称の使用は避けるべきでしょうね。

## 今後の対応

**牛島** では、今後の対応なのですが、一時は債務を私が引き継いだものと考え、業者に支払おうともしていたのですが、その必要はないわけですね。

**宮下** はい。契約書において債務の承継について定められていなければ、原則として支払う必要はありません。ただし、業者の方との今後の関係もあると思いますので、改めて話し合いの場を持たれることは必要かもしれません。まず、今回の前オーナーと牛島さんとの間の取引は営業譲渡に該当せず、牛島さんは債務を承継していない旨を説明し、前オーナーに対する今後の対応について協議することになるでしょう。

**牛島** そうですね。債権者の中には、仕入をお願いしようと思っている取引先もあり、店を続けていく上で、欠かせないパートナーだと言えます。その方々が困っておられる状態が続いているのは心苦しいですね。

**宮下** まずは前オーナーに誠意ある対応をしていただきたいですね。なお、債権者の立場ですが、債務者ではない牛島さんに請求書を送っても、催告（民法一五三条）の効果は発生しません。前オーナーに対する債権が、二年の短期消滅時効（民法一七三条）にかかる場合もありますので、債権者が、催告の効果を期待して時効期間の計算を誤ったりしないよう、早めに債権者と話し合うほうがよいですね。

**牛島** 分かりました。近々話し合いの場を持ちたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

**宮下** ご健闘をお祈りいたします。



## 今月のことば

### 白ロムケータイ（しろろむけいたい）

「白ロム」とは、回線契約がなされておらず、電話番号が入っていない状態をさす。携帯電話の心臓部の一つがSIMカードとよばれるICカードで、電話番号を特定するための固有のID番号が記入される。この回線情報の入ったSIMカードの抜かれた状態が「白ロム」である。逆にSIMカードが入っていて、そのまま使えるものは「黒ロム」とよばれる。ケータイは新規のものばかりでなく、中古品の「白ロムケータイ」も取引されることがある。中古品の購入者は、それまで自分の使っていたケータイからこのSIMカードを抜き取って、新しく購入した中古品に差し込めば、そのまま使用することができる。もちろん、電話番号情報がSIMカードに入っているので、以前に使っていた電話番号でそのまま使うことができる。こうした「白ロムケータイ」が人気を集める背景には、2007年からケータイ端末が5万円程度に値上がりしたことがあるといわれている。新品を分割支払いで購入しても高いことから需要があるようだ。

### メディアアンビシャス（めていああんびしゃす）

北海道大学教授の山口二郎が提唱した、メディアに関心を強くもち、優れた報道を行ったメディアを市民の側から高く評価し、力づけることによって健全なメディアを作り出していこうという市民の自発的な運動。山口によると、情報の消費者である自分たちの役割は、自由で多様なメディアを作り出すことであり、ステレオタイプに陥るメディアを批判すると同時に、自立する市民の立場からメディアを励ますことによって、「自分たちのメディア」という意識を強くしようというものである。これまでメディアを批判する市民運動は数多くあったけれども、メディアを励まそうという市民運動は歴史上初めてではないか、と演出家の今野勉は述べている。